

「東日本大震災からの復興への願い」麻草田紙

## 匿名希望

震災後、外で遊ぶ、家の中でゲームをし  
 たり、本を読んだりしていました。福島市内  
 に引こして、震災前はあたり前に外で  
 遊んでいたけど引こしてからは、外で遊ぶ  
 時間が減、てしまい、震災前より運動量が少  
 なくな、てしまいました。中学生にな、た今  
 飯館村にある本校舎を実際に見たことがあり  
 ません。私が卒業して、村に戻る予定がある  
 のですが、実際は、本校舎に通うこともでき  
 ず、仮設校舎での生活で中学校3年間過ごす  
 ことになり、本校舎に通えないことがとても  
 残念に思、ています。少しでもはやく復興を  
 進めて、元の飯館村にもど、てほしいと思ひ  
 ます。

そのためには、役場の方で働くのではなく、  
 村民の意見を参考にしたらうえて村にもど  
 ることを決断してほしいと思ひます。

今後は、将来村にもど、て仕事をしたいと思  
 ひ、ているので、市内の方で基礎の知識を学  
 んだ後、村で働きたいと思ひます。

「東日本大震災からの復興への願い」麻草田紙

## 匿名希望

僕は、震災後飯館をほなれて、ひなんし手  
 した。でも飯館は僕たちのふるさとだから、  
 なるべく早く飯館にもどりたいです。そして、  
 おじいちゃんや飯館中をそだてたりふるさと  
 づくりすることをおたくさんしたいです。そのた  
 めにもなるべく早くいよせんを終わらせてほし  
 いです。いよせんを終わらせたなら、同じこと  
 がおきばいように、ひんし力発電を使わない  
 でほしいです。そうすれば僕たちもしたいが、  
 ことが少しでも入ると思うからです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

私は、震災後、川俣中学校をかりて授業を  
 行っていました。3校の学校が1つの教室に  
 集まり、授業を行っていました。大変でした  
 が、新しい友達ができ、上手にコミュニケー  
 ションがとれるようになってきました。校舎  
 をかしてくださ、た方々にも感謝しています。  
 家庭でも家を引越して、慣れない環境の中で  
 過ごしていました。でも、家族のあたたかさ  
 や友達関係などがより一層深ま、たのびはほ  
 いれと思いました。今は飯館中学校で生活し  
 ています。部活も勉強も両立させ、使いやす  
 い環境で過ごすことができていると思います。周りの  
 方々の支えがあったからだと思えます。この震  
 災があり、私たちが体験し、恩返しができる  
 機会もありました。

今後の自分については、高校に行き、専門  
 学校に通学したいと考えています。夢を叶え  
 るために今、勉強に力を入れ、生活態度な  
 どをしっかりと身につけていこうと思えます。  
 目標のために努力していきたいです。

「東日本大震災からの復興への願い」応募用紙

匿名希望

震災後、私に不便はあっても、たこは3つあ  
ります。私が学校です。いそが何十分と時間  
をかけた登下校しました。そのため、朝はと  
てもはやくおきなげなほなりませんでした。  
次に家です。今まで家族全員が住んでいたの  
に、いっしょいっしょにすめようになりました。母が  
父のあきらみがあつて、子供はけがも命もたか  
ることもありました。最後は親戚です。今  
まではずっと一緒に暮らしてきておりましたが、  
よくあつていた。に、遠くになり、なれたあ  
えな、なりました。正月などもあつてあつ  
たりはでまさん、しかし、今は、親戚ま  
であつて、たりの祖父母の家にとまりに行  
たりでまさんよになりました。  
今後の私の希望は、原発が少しづつたつた  
ることです。東日本大震災では、原発をたけ  
れば今も住めるところがあったらと思  
います。私が社会に望むことは原発をすこし  
でもなくすることです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

震災があつて、福島の方へいなくなりました。  
 す。今は、何のかわりもなく生活しています。  
 それに家族とかも変わらずに生活できていま  
 す。今は、仮設校舎で学校生活をおくって  
 ますが、特に不便などはなく、いい環境で  
 きています。でも、部活をもっと長くやりた  
 いと思うことがあります。でも、支援して  
 いただいているので、感謝しています。  
 今後の自分の目標は、中体連で勝つこと  
 です。僕たちの最後の中体連を勝つて終わ  
 りたいです。そのための部活の時間が短か  
 くて、その中でできること一生懸命や  
 っています。悔いのないよう  
 になりたいです。そして、このキ  
 ャンが良か、たと思えるようにな  
 りたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」麻葉用紙

## 匿名希望

私	が	、	小	学	3	年	生	の	と	き	に	、	震	災	が	起	き	原	
因	が	爆	発	し	ま	し	た	。	外	で	遊	ぶ	こ	と	が	大	好	き	だ
。	た	の	で	家	族	に	、												
「	外	は	放	射	線	が	可	ご	い	か	ら	遊	ん	じ	や	だ	め	だ	」
ら	ぬ	。	」																
と	言	わ	れ	た	と	き	は	と	て	も	幸	か	、	た	で	可	。	限	ら
れ	た	場	所	で	の	生	活	で	し	た	が	、	家	族	み	ん	な	が	遊
べ	る	よ	う	な	ト	ラ	ン	グ	や	可	ご	ろ	く	を	し	て	遊	び	ま
し	た	。	み	ん	な	が	お	互	い	を	支	え	あ	、	て	震	災	を	乗
り	こ	え	ま	し	た	。													
◇																			◇
今	後	の	自	分	の	目	標	は	、	積	極	的	に	行	動	可	る	こ	と
と	で	可	。	今	の	自	分	に	で	可	る	こ	と	は	た	く	さ	ん	あ
る	と	思	う	の	で	積	極	的	に	行	動	し	て	福	島	の	未	来	に
貢	献	で	可	る	人	に	な	り	た	い	で	可	。	で	も	、	そ	れ	は
私	し	人	の	力	で	は	目	標	達	成	は	で	可	い	の	で	周	り	
に	い	る	み	ん	な	と	協	力	し	て	い	き	た	い	で	可	。		

「東口太々雲糸からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

震災後の苦勞・不便の中でも自分や家族・  
 友達ががんばってきたことは、まずふるさと  
 である飯館村をはなれてアパートなどを借り  
 て生活することがたいへんでした。次に苦勞し  
 たことや不便だ。たことは、小学校の校庭が  
 小さか、たことです。校庭が小さいとなか  
 が遊ぶ場所がなか、たので正直不便でした。  
 次に不便なことはプールが学校にないので他  
 校のプールを借りないといけないのでたいへ  
 んでした。

◇ ◇ ◇  
 今後の自分の目標や希望は、部活動をは  
 ねることです。僕たちは部活動の面でも様々  
 な方々にしえんさんされているので、そのことを  
 思い日々部活をはねていきたいです。  
 そのため必要なことは努力だと思いません。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 齊藤 和訓 年齢 14歳 職業・学校名 学生・飯館中学校

東日本大震災の後、僕は横浜市へ避難を  
 しました。横浜に家を借り、近くの学校へもか  
 よい、母とも弟たちのことを考えると福島に  
 戻りたいほうがいいのかなども話したりもし  
 ました。それから一年が経った時に、僕たち  
 は福島へ帰ってきました。帰ってくるまでか  
 けとなったのも弟の存在でした。僕の弟は一  
 年生になる頃で近くの小学校にかよわせる予  
 定でした。しかし、字がなかなかいぬそうもな  
 く、元の友達の方がやりやすいのはとな  
 り、福島へ戻ってきました。僕は正直、向こ  
 うに慣れすぎていたのを逆に戻ってきてから  
 の方が心配でした。しかし、今までの友達や  
 新しい友達もでき、今では帰ってきたことが  
 自分にとってプラスになったと感じました  
 今後僕は、自分の故郷である飯館村や福島  
 のためにプラスになることをしたいと思っ  
 ています。そのためにも、当たり前のことを見  
 ずくんとし、中学生だからこそべきことを見  
 つけ、実行していきたいと思っています。





「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

僕が震災後から、てままとは、勉強や  
 運動です。僕は、震災前から、勉強も運動も  
 苦手だったけれど、震災後とあまり変わらな  
 い生活をしていきます。ですが、僕は、震災と  
 原発事故が起きてからは、悲しいニュースも  
 多いなと思いました。たとえば、風評被害を  
 受けたり、自殺した人もいました。しかし、  
 数年経つたある日、ホシのニュースもあるま  
 とをしりました。計画的避難区域が解除さ  
 れたとです。僕は、このニュースを見ている  
 うちに、いつか村に帰る事ができるのでは  
 と思いました。

今後の僕の目標は、計画したまを実行す  
 るようにすることです。そのために、僕は  
 できるだけ行動するよう心がけていきたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」匿名希望

## 匿名希望

私は東日本大震災が起きた後、福島市へ避難しました。生活を可るなかでの苦労は少ないものの、中学校へ通学可るために長時間バスに乗り続け可るなど、初めは慣れなれいことばかりで大変でした。しかし、今では慣れなれかた、たことちも、当たり前のように思え可ります。そこで、避難生活によ、てふるさとにいた頃の思い出がなれなくなれ、てしまわれ始めよりに、私たちの学校では、仮設住宅に住んている方々とふれ合え可る行身があらあります。

私は、いつか震災前のように、自分のふるさとで家族と過ごせ可るようになれればと思います。福島が復興可ることは、震災前のように明るく、笑顔のおふれ可る姿に戻可ることだと思います。そのために、今の自分にできることはなれいか、そち考えて行動が可るようになれていきたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」麻葉用紙

匿名希望

僕が、震災後苦勞したのは、体が良かった友達と震災の影響で離れはなれにたつてしまったことです。最初はしても悲しかったですが、飯館の小学校が一つになり、新しい友達が増え、次第にそのくがれさがよくなり、震災後の生活にも慣れてきたまう気持ちになりました。ですが僕の飯館村を想う気持ちは、変わりません。

今後の自分の目標は、将来、僕たちは飯館村を立しよ。立つ立派な大人になるために、常に飯館村を想う気持ちは忘れる、これからどんな苦勞があつても、乗りこえ、飯館村を復興でさらほと思ひました。

「東日本大震災からの復興への想い」麻葉田紙

## 匿名希望

私は、福島県の飯館村に住んでいました。  
 東日本大震災が起こったとき私は学校にいま  
 した。伊れが大きい物が落ちトロフィーがか  
 ざってあるガラスのケースもあわていました。  
 外に出てみると、今まで遊んでいた友達や下  
 級生や上級生の笑顔はきん泣きだしてしま  
 う人もいました。震災後私の家族ははなればな  
 れにあり、おじいちゃんやおばあちゃん、ひ  
 いおばあちゃんとずとまふまふでした。  
 現在私達家族は、おじいちゃんとおばあち  
 んの家に遊びにいったりしています。前は一  
 緒に住んでいたのでもう少し寂しいですが、い  
 うでも会えるのでとてもうれしいです。家族  
 が全員そばにいることの大切さがよくわかり  
 ました。飯館村はとしても美しい村なのではや  
 く復興してほしいと思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 雅彦

年齢 13 歳

職業・学校名 学生 飯館中学校

震災後、僕の家ではまず車のガソリンが無  
 くな、てしまいました。その時に、ちょーど  
 近所に住んでいる人がガソリンを持っていて、  
 快くそれを分けてくれました。そのガソリン  
 があ、たお陰で、少しはなれたスーパーに食  
 品を買いに行くことができました。それに震  
 災後、飯館も停電で、再び電気が通ったのは  
 5日後でした。その間は、七輪で火をおこし  
 て暖を取、たり、早めに寝ていたりしていま  
 した。そして、電気のありがたみを改めて知  
 りました。

今、僕は将来植物に関係する仕事をしたい  
 と考えています。しかし、まだ福島県には風  
 評被害で悩まされている農家の方々がた  
 さんいます。なので僕が大人になるまで  
 少しこのようなことが改善されるといいな  
 と思、ています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 岳史 年齢 14 歳 職業・学校名 学生・飯館中学校

震災後では、放射能が福島県に降りそそぎ、避難として、当時飼っていた猫とやむを得ず置いてきてしまい、とても辛かった。カリリンなども足りずに並列かできたりしたこともありましたがその中でも、パニックを起こしたりせずに、父親や母親達は最大限の食料や貯金を持って避難先で節約しました。

今、現在は父親は、トマトなどの野菜作りや菊などの花作りをしています。母も、その手伝いをしていたりと、生活が安定しています。

これからの自分の目標は、父親の農家の後を継ぎたいと思っています。他には旅をしたいという希望もあります。

そのためには、高校まで行き、その時点で大学まで行きたいという希望があり、農業専門学校や農業の分野がある大学まで行き大学を卒業することが必要だと思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

自分の震災後の大変だったことは、ガソリン、水、電気、学校、ほうしゃのうでした。ガソリンは、すごい行列にならんで、入れてもらって、水は、山の水だったので、のめないのて、水を買っての人でいました。電気は、つかないのて、ろうそくでつけたり、かいちゅうでんとでした。学校は、川俣中学校の1部をかりて、うけて、昼休みは、近くの小学校の校庭でした。ほうしゃのうは、あまり知らなかつたけど親が、さおいていた。そこで頑張ってきたことは、自分の好きな野球を続けることでした。1年ほどできなかつたのてすが、今現在もやっています。すごく楽しいです。

次に、今後の自分の目標は、甲子園に行つてしっかりと、結果をのこしてきたいです。そのために必要なことは、リトルシニアで東北大会で、優勝して、全国大会に行き、3勝くらいしてくることだと思います。だからこれからも、頑張りたいと思います。



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 優也 年齢 14歳 職業 (学校名) 飯館中学校

僕	が	震	災	後	の	苦	勞	・	不	便	だ	な	の	と	思	。た	こ		
と	は	、	い	つ	も	通	り	に	使	、	つ	い	た	水	と	電	気	が	使
え	な	く	な	。た	こ	と	で	す	。水	や	電	気	が	使	え	な	い		
こ	と	に	よ	、	ト	イ	レ	の	水	が	流	れ	な	く	な	。た	り		
電	気	が	使	え	な	い	の	で	、	ろ	う	そ	く	を	家	中	に	置	
い	た	り	し	ま	し	た	。僕	の	家	で	は	前	使	、	つ	い	た		
井	戸	を	ま	だ	使	え	る	の	か	調	べ	て	、	使	え	る	こ	と	が
分	か	、	つ	親	は	そ	の	井	戸	を	使	え	る	よ	う	に	が	ん	ば
。つ	い	ま	し	た	。今	、	現	在	は	、	福	島	市	の	蓬	菜	町		
に	住	ん	で	い	て	毎	日	、	不	便	な	ど	な	く	、	便	利	な	場
所	で	暮	ら	し	て	い	ま	す	。										
今	後	の	自	分	の	目	標	は	、	今	回	こ	の	よ	う	な	大	き	
な	大	震	災	が	あ	っ	て	、	い	ろ	ん	な	人	か	ら	支	援	さ	れ
て	る	か	ら	今	こ	う	し	て	生	活	が	で	き	ま	す	。な	の	で	
今	後	は	、	も	し	、	困	、	つ	い	る	困	と	か	が	あ	、	た	ら
支	援	し	て	い	ま	す	と	思	い	ま	す	。ま	た	今	後	の	自		
分	の	希	望	は	、	放	射	能	が	全	部	な	く	な	。つ	、	飯	館	
村	で	ま	た	生	活	を	す	る	こ	と	で	す	。						

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 悠哉 年齢 14歳 職業・学校名 学生・飯館中学校

震	災	当	時	私	た	ち	は	不	便	な	中	で	生	活	を	し	て		
り	ま	し	た	電	気	が	な	い	水	道	が	使	え	な	い	な	ど		
今	ま	で	あ	た	り	ま	え	に	便	こ	り	た	物	が	失	わ	れ	て	
し	ま	り	ま	し	た	避	難	を	し	て	も	友	達	は	バ	ラ	バ		
ラ	に	な	り	友	達	と	遊	ぶ	こ	と	も	も	ど	き	ま	せ	ん		
で	し	た	そ	の	よ	う	な	中	で	も	明	か	り	を	ろ	う	そ		
く	を	使	て	確	保	す	る	な	ど	し	て	困	難	な	状	況	を	乗	
り	こ	え	て	き	ま	し	た	今	で	は	少	し	す	つ	近	所	付	き	
屋	い	も	増	え	地	域	に	と	け	込	む	よ	う	に	頑	張	て		
い	ま	す	原	発	事	故	に	よ	る	放	射	能	も	今	で	は	除		
染	を	し	た	り	口	に	入	れ	る	物	は	放	射	線	検	査	を	し	
た	り	な	ど	し	て	今	ま	で	と	同	じ	暮	ら	し	が	ど	き	る	
よ	う	努	力	し	て	り	ま	す											
僕	は	こ	の	震	災	を	え	て	人	の	助	け	に	な	れ	る	任		
事	に	就	き	たい	と	思	う	よ	う	に	な	り	ま	し	た	も	し		
未	来	同	じ	よ	う	な	震	災	が	あ	ら	な	時	に	同	じ	思		
い	を	す	る	人	が	少	し	ど	も	減	る	よ	う	に	な	れ	ば	と	思
こ	り	ま	す	ま	た	僕	自	身	も	そ	れ	に	関	わ	り	た			
い	と	思	い	こ	り	ま	す	そ	の	た	め	に	も	僕	は	勉	強		
な	ど	将	来	に	繋	が	る	こ	と	を	し	て	い	き	た	い	じ	す	

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 伏見 渚 年齢 14歳 職業・学校名 学生・飯館中学校

東日本大震災が起った	のは私が小学3年
生の時でした。	突然の天まは揺れにとまどい、
家具が倒れて家の中は散らんしとても大変で	
した。震災後の生活で思、のは	当たり前前
の事、で当たり前じゃないん	だばと思いまし
た。お風呂に入れる事も電気をつけられる事	
も震災があ、てから、ありがた	いと思えるよ
うに感じました。飯館村は、放射能の影響で	
全村避難することになり、家族や友達とバウ	
バウになっ、てしまっ、た時はとても又みしく、	
悲しか、たです。でも、そんな中支援してく	
だ、た、方々がいてくさんいました。震災から	
もう5年が経とうとしていゝ今でも支援して	
下さ、ていゝ方がいゝ本音にありがた	いです。
私はこれから、支援される側から支援する	
例は感じたいです。	
たくさんの支援をいゝ事には感謝し、	
福島への復興、心の復興が早く進めよう自分	が
でやる事はしていきたいです。	

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 齋藤 由香 年齢 13歳 職業 学校名 飯館中学校

震災後は、水道の水が出なかったのでも水が  
 あるところまで歩いて水をくみに行っていました。  
 また、電気がつかないため夜は暗か  
 たのでローソクに火をつけて生活していまし  
 た。食料は、家にあるものを食べていました  
 がだんだんなくなってしまう大変でした。学  
 校は、川俣中学校の一部を借りていました。  
 体育は、川俣小学校の体育館や校庭を借りて  
 いました。震災前は、犬をかっていたけれど、  
 今はアパートに住んでいるため犬をかうこと  
 ができなくなりました。今あたり  
 まえの生活ができることに感謝しています。  
 今後の自分の目標は、自分は小学3年生の  
 こころから声優になりたいという夢がありまし  
 た。震災後、電気がつくようになったからテ  
 レビをつけるとニュースばかりでアニメは放  
 送されずたいくっだ。たときがありました。  
 なので、私は将来声優になって世界中の子ど  
 もたちに笑顔になってもらえるようにこれか  
 らも頑張っていきたいと思いました。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 庄司 優花 年齢 13 歳 職業・学校名 飯館中学校

私の震災後の苦労は電気が使えななから、この  
と、友達と離れてしま。このと、学校が別の  
場所にうつ。てしま。てということまで。震  
災がおきて3月11日は寒か。こので電気が  
使えははの口ととも大変でして。仲の良か。  
この友達は違う学校に引、これてしま学校の  
人数も減、てしまいま。この今は、飯野町の  
仮設校舎に通。ていて毎日バスで登校して  
ます。最初の頃は、バスに乗、ている時間か  
長くとも苦労してしまか。何年か同じ生活  
◇  
としていると、バスに乗、ているのも慣れ  
てしま。この。  
私は、震災を経験してくさんの方の笑顔か  
うばわれにと思うので、いろんな人を元気が  
け笑顔にできるよりな職業につきたいと思  
ます。そして、おんなを助けられるよりな優  
しい人になりてい。そのために今できる  
部活や勉強に精一杯取り出したいと思います。  
そして、少くも復興に近づけるよりなこと  
していき。この。

氏名 若林 悠華

年齢 14 歳

職業・学校名 飯館中学校

震災後は、放射能の影響によって水道の水が飲めなくなりました。また、地元の野菜を食べる事が出来なくなりました。また、福島原発の爆発した時にどのようなふうになったのか分かりませんでした。また、飯館村が全避難になった時は、学校もどうすればよいのか分かりませんでした。また、学校もし、かりとした環境で行はう事が出来なかった。ので不便な事がたくさんありました。

今後の自分の目標は、たくさんの人達に支援してもらって、おかげで少しずつ元の生活に戻っていったので、今度は飯館村の人達が、何か困っている人に支援や思い返しが出来るといなる事です。また、飯館村の震災前の自然の美しさや、手ごいという言葉も大切にしてください。また、事柄などももっとたくさんの人に伝えていけるようになりたいと思います。

そのために、震災で大変だった事や放射能による影響で大変だった事をたくさんの人に伝える事が必要だと思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 細川 莉れ 年齢 14 歳 職業・学校名 学生 飯館中学校

三	月	十	一	日	の	東	日	本	大	震	災	で	、	大	変	だ	っ			
た	こ	と	も	不	便	だ	っ	た	こ	と	は	、	電	気	や	水	が	使	え	
な	か	っ	た	こ	と	で	あ	。ト	イ	レ	や	テ	レ	ビ	が	使	え	な		
い	の	は	と	て	も	不	便	だ	っ	た	し	、	情	報	も	あ	ま	り	入	
っ	て	こ	な	く	て	、	不	安	で	し	た	。ま	た	、	友	達	と	離		
れ	て	し	ま	っ	た	り	、	放	射	能	の	心	配	も	あ	っ	た	り	し	
て	、	と	て	も	大	変	で	し	た	。で	あ	が	、	大	変	な	中	で	い	
も	、	家	族	と	協	力	し	て	家	の	片	付	け	を	し	た	り	、	近	
所	の	友	達	と	は	い	ま	し	あ	っ	た	り	し	て	頑	張	る	こ	と	
が	で	き	ま	し	た	。今	も	放	射	能	の	心	配	は	あ	る	け	ど	い	
仮	設	校	舎	が	で	き	ま	た	り	、	多	く	の	人	か	ら	支	援	を	い
た	だ	い	た	り	し	て	、	充	実	し	た	環	境	に	な	っ	て	ま	て	
い	ま	す	。																	
こ	れ	か	ら	は	、	少	し	で	も	早	く	飯	館	村	が	復	興	で	い	
ま	る	よ	う	に	、	小	さ	な	こ	と	で	も	一	生	懸	命	取	り	組	
ん	で	い	ま	た	い	で	す	。												
そ	の	た	め	に	は	、	ど	う	あ	れ	ば	福	島	県	の	復	興	に	い	
近	づ	け	ら	れ	る	か	を	考	え	て	、	全	員	が	協	力	す	る	こ	
と	が	大	切	だ	と	思	い	ま	す	。そ	し	て	福	島	県	の	こ	と	を	
を	知	っ	て	も	ら	う	た	め	に	発	信	し	て	い	ま	た	い	で	す	

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 細川美裕

年齢 14歳

職業・学校名

飯館中学校

震災直後、私が住んでいた飯館村は電気が  
 つかず、水も流れませんでした。ほの、夜  
 ほとても暗く、トイレも水が流れずに、とて  
 も不便でした。ですが、電気がつくようにな  
 り、ホットボトルの水もたくさん配ってもら  
 い、ほんとは生活をしていました。ですが、  
 原発事故が起こり、外で遊ぶことができず、村を  
 出られることになりました。とても  
 つらかったですが、家族で支えあい、今は笑  
 顔で毎日を過ごすことができている。この  
 震災で、あたりまえのことに対してのありが  
 たさ、家族に対しての感謝をあらためて感じ  
 ることができました。

私はまだ、将来の夢を持っていません。が  
 すが、私を支えてくれた家族や、支援してく  
 ださった、たくさんの方々のように、大切な  
 人の支えにあり、こまっっている人のために行  
 動できる大人になりたいと思っています。そ  
 のために、この感謝の気持ちをお忘れずに、1  
 日1日を過ごしたいと思っています。



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 星 明 花

年齢 14 歳

職業 学生

学校名 飯館中学校

震災があつてから苦労した事はたくさんあ  
 りました。例えば、水や電気などが使えなく  
 なつた事。食べるものがあまり無かつた事。  
 親は、ガリリンをもらうのに、何時間も並び  
 ました。その中でも一番辛かつた事は友達と  
 離れてしまつた事です。転校してしまつた友  
 達もたくさんいます。家も離れてしまいまし  
 た。でもそんな中でも学校は始まり、今まで  
 生活してきました。今は飯野の仮設校舎で生  
 活しています。バス通学でなかなか不便な事  
 もありますが、中学校のみんなとがんばつて  
 います。

私は将来、人の役に立つ仕事をしたいと思  
 っています。それは震災があつて、たくさん  
 の人に支援などをしてもらつたので、自分も  
 役に立つ仕事をしたいと思つたのも、一つの  
 理由です。

そのために、たくさん勉強して夢を叶え、  
 社会に役立つような、強く大きな人間になり  
 たいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

震災が起きた。当時、電気が使えなくな、  
 いつものあたり前口使、ていたテレビや電気が  
 なくなった。とり光を採るものが使えなくな、  
 たらうろくで明るくするのが不便だ、た。夫  
 だ、風呂口も入れな、た。ニュースはラジ  
 オを使、て聞いていた。震災後は、ガソリン  
 が無か、たり、食が物が少なくて苦労した。  
 住む家が変わると、アパートマンションとな  
 るのあまり広くない家で生活するの習慣ある  
 のに苦労した。母親は仕事の場所が変わ、て  
 福島から2時間かけて仕事に行、ていた。  
 今回の自分の目標は、自動車を作る会社に入  
 りたいと思、ています。より安全な車や震災  
 が起、たときでも使えるような車が作りた  
 い。社会に望むことは、日本では大震災が過去  
 に一回あ、て、多くの死者が出たのに今回も  
 死者が少し出、た。たので、次にえな、て  
 も、と対策をし、てほしいと望んでい、ます。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 中川 朋也 年齢 14歳 職業・学校名 学生・飯館中学校

震	災	が	起	き	、	大	く	さ	ん	の	苦	勞	や	不	便	な	こ	と		
が	あ	つ	ま	し	た	。特	に	震	災	当	日	の	夜	は	一	番	苦	勞		
し	ま	し	た	。電	氣	が	つ	か	ず	、	暗	の	中	懐	中	電	灯			
を	つ	り	て	家	族	で	囲	ま	、	て	い	ま	し	た	。父	が	仕	事		
で	離	れ	て	い	た	の	で	安	否	が	と	て	も	こ	に	配	て	し	た	。
食	料	も	困	り	し	ま	、	て	い	た	カ	ッ	プ	ラ	ー	メ	ン	を		
み	ん	な	で	分	け	て	食	べ	ま	し	た	。他	ル	も	水	が	出	な		
く	、	ト	イ	レ	が	流	れ	な	い	こ	と	な	ど	と	て	も	苦	勞	し	
ま	し	た	。放	射	能	の	影	響	も	こ	に	配	て	し	た	。し	か	し		
家	族	で	協	力	し	な	が	ら	な	い	こ	と	が	生	活	を	送	っ	て	い
ま	し	た	。現	在	で	は	、	家	族	み	ん	な	が	一	軒	家	に	住		
み	、	欲	し	い	物	が	あ	、	大	ら	い	う	で	も	買	う	こ	と	が	
でき	、	充	実	し	た	生	活	を	送	っ	て	い	ま	す	。					
僕	の	今	後	の	自	標	は	高	校	に	入	ッ	し	、	か	ッ	と	勉		
強	し	、	大	学	に	も	行	く	こ	と	で	す	。そ	し	て	不	便	な		
状	況	で	も	優	し	く	接	し	て	く	れ	た	り	、	欲	し	い	も	の	
を	与	え	て	く	れ	た	親	に	親	孝	行	し	た	い	い	で	す	。		
その	大	め	に	、	今	の	生	活	や	自	分	の	今	後	の	生	活			
に	つ	い	て	も	う	一	度	見	直	す	な	ど	の	努	力	が	今	の	自	
分	に	は	必	要	な	な	ら	な	い	こ	と	だ	と	思	っ	て	い	ま	す	。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 佑斗

年齢 13歳

職業・学校名 学生・飯舘中学校

。	ぼく	は	。	震	災	直	後	は	と	て	も	不	便	な	生	活	を	送	
り	まし	た	。	電	気	も	水	も	使	う	こ	と	が	で	き	ず	に	。	
4	日	ほ	ど	し	た	と	き	に	や	っ	と	電	気	や	水	が	使	え	る
よ	う	に	な	り	まし	た	。	し	か	し	。	そ	の	後	飯	舘	村	に	。
放	射	能	が	ふ	り	まし	た	。	そ	し	て	。	飯	舘	村	か	ら	避	。
難	す	る	こ	と	に	な	り	まし	た	。	避	難	所	の	体	育	館	で	。
は	不	自	由	な	生	活	を	強	い	か	れ	まし	た	。	避	難	所	で	。
の	生	活	が	終	わ	っ	て	も	。	飯	舘	村	か	ら	引	っ	越	す	こ
と	に	な	っ	て	し	ま	い	まし	た	。	ど	も	。	負	け	ず	に	か	。
ん	ば	っ	て	生	活	し	。	中	学	に	な	っ	て	み	ん	な	に	再	会
す	る	こ	と	も	で	き	まし	た	。	今	は	と	て	も	い	い	学	校	。
生	活	を	送	れ	て	い	まし	た	。										
今	の	自	分	の	目	標	は	勉	強	を	が	ん	ば	り	。	友	人	関	。
係	を	大	切	に	す	る	事	と	。	親	と	の	会	話	を	な	る	べ	く
多	く	す	る	こ	と	で	す	。	そ	し	て	早	く	村	に	帰	り	た	い
で	す	。	そ	の	た	め	に	村	が	安	全	に	な	り	多	く	の	村	民
が	村	に	戻	れ	た	ら	い	い	な	と	思	い	まし	た	。				

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 伊東 幸輝 年齢 14歳 職業・学校名 飯館中学校

震災後、震災事故で村を出た後も、家族が  
 親せきの人がすか家を探してくれたり家に泊  
 めてくれたりして、とくに苦労が不便があり  
 ませんでした。これは、家族が親せきの人の  
 利がけでのびのびと感謝しています。そして、  
 震災後すかにほくは、足の手術を手術しまし  
 た。その手術の時がその復興院へ通う時に送  
 りおかしとしてくれた祖母に感謝しおかし  
 ます。

僕は、福島をよりよくするため、除染作  
 業が終わる後でも二の景気の上を維持す  
 ることが大切だと思えます。



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

震	災	後	は	電	気	も	か	ス	も	使	え	な	か	た	の	で			
ロ	ー	ソ	フ	を	立	て	て	ご	飯	も	食	べ	ま	し	た	。	震	災	
か	友	た	日	は	ち	よ	う	心	冬	で	寒	か	っ	た	の	で	。		
炭	火	も	た	い	で	温	ま	り	ま	し	た	。	こ	も	炭	を	た	き	
木	ぎ	て	お	父	さ	ん	か	た	お	れ	て	し	ま	た	時	は	。		
ゆ	。	く	り	し	ま	し	た	。	炭	を	た	く	時	は	。	か	ん	さ	を
す	る	た	で	気	を	付	け	て	生	活	し	ま	し	た	。	放	射	能	の
母	い	で	外	で	遊	べ	い	。	家	の	中	ば	か	り	で	。	ス	ト	シ
ス	ル	た	ま	る	時	も	あ	り	ま	し	た	。	こ	も	太	姉	ち	ん	
ん	か	。	一	緒	に	遊	ん	で	く	れ	た	り	く	て	う	れ	し	か	。
た	で	す	。																
今	後	の	自	分	の	目	標	は	。	コ	ン	ピ	ユ	ー	タ	を	使	っ	た
た	仕	事	に	付	き	。	い	ろ	い	ろ	な	人	達	が	喜	こ	ぶ	テ	が
イ	ン	ガ	。	シ	イ	ア	ウ	ト	制	作	か	こ	も	し	た	い	と	考	え
て	い	る	。	そ	の	た	め	に	。	テ	ガ	イ	ン	な	こ	も	自	分	で
考	え	。	い	ろ	い	ろ	工	夫	な	こ	も	し	て	。	ミ	ン	な	に	喜
こ	は	れ	る	テ	ガ	イ	ン	を	作	り	。	い	ろ	な	人	達	を	笑	
顔	し	た	い	と	思	っ	て	い	ま	す	。								





「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 紺野美咲

年齢 15 歳

職業・学校名 飯館中学校

東	日	本	大	震	災	が	起	き	て	か	ら	5	年	が	た	。	私	
は	、	村	の	学	校	で	学	習	す	こ	と	が	で	き	な	く	な	り
飯	野	町	の	仮	設	の	中	学	校	で	学	習	し	て	ま	し	た	。
昔	の	た	め	、	学	校	を	壊	れ	た	バ	ス	が	出	て	い	ま	す
福	島	市	か	ら	飯	野	町	へ	の	バ	ス	の	運	行	は	大	変	化
ま	す	。	ま	た	、	仮	設	の	学	校	は	村	の	学	校	よ	り	も
と	も	不	便	で	校	庭	で	の	び	の	び	と	遊	ぶ	こ	と	が	で
き	な	か	、	た	り	、	部	活	が	は	や	水	泳	部	活	動	も	あ
り	ま	し	た	。	今	、	現	在	村	の	お	は	除	染	を	し	て	村
に	帰	り	の	よ	う	に	し	て	い	ま	す	。						
◇																		
今	後	の	目	標	は	、	高	校	に	入	学	し	、	自	分	の	夢	で
あ	る	調	理	師	の	免	許	を	取	得	す	こ	と	で	す	。	調	理
師	の	免	許	を	取	得	で	き	た	ら	、	福	島	市	の	飲	食	店
で	働	き	、	い	ず	か	は	自	分	の	店	を	持	っ	て	、	私	が
作	ら	な	い	料	理	で	笑	顔	に	な	ら	な	こ	と	を	し	な	さ
す	。	そ	の	た	め	に	私	は	、	調	理	師	の	免	許	を	取	得
す	こ	と	た	め	に	、	調	理	実	習	や	普	段	の	学	習	を	し
、	か	り	す	こ	と	で	す	。	ま	た	、	私	が	作	ら	な	い	料
理	を	中	心	・	中	心	に	食	べ	て	も	ら	い	た	い	の	で	衛
生	面	と	い	っ	た	こ	と	も	レ	ッ	か	り	学	習	し	た	こ	と
で	す	。																

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

震	災	で	村	に	住	め	は	く	は	て	し	ま	っ	て	り			
と	仮	校	舎	も	て	さ	て	ビ	ス	も	て	て	毎	日	学	校		
に	通	う	こ	と	が	て	さ	て	い	る	私	も	家	族	も	✓		
も	の	り	進	学	す	る	こ	と	が	て	さ	社	会	に	い	る	こ	
と	が	て	さ	て	い	る												
今	後	の	受	験	に	備	わ	高	校	進	学	を	し	て	自			
ら	も	兄	姉	の	よ	う	に	社	会	に	い	て	て	将	来	の	夢	
の	た	め	に	が	い	ほ	り	に	い									
就	職	し	て	県	内	で	も	県	外	に	い	て	も	福	島			
の	手	を	も	て	ア	プ	ロ	ー	ル	し	て	復	興	に	た	ず	さ	わ
て	い	ま	す	て	い	で	す											
ま	れ	の	り	も	と	安	心	安	全	で	平	和	な	日				
本	に	し	て	い	ま	す	て	い	て	す								

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 荒下 起

年齢 15 歳

職業・学校名 飯館中学校

震災が起こり、僕達の故郷の飯館村は放射能の影響で住むことができなくなりました。学校の同級生はみんな避難した新しい家から学校へ通っています。バスで市内へ帰るために放課後の時間が少なく部活動や行事の準備を十分にできません。ですが、学校では短い時間でも部活動や文化祭の準備などを一生懸命がんばり充実した生活を送ることでがんばりました。そのほかほか、最近では、部活動で結果を残せるようになったり、文化祭の来客数が増えられました。

今後は、今の生活でも飯館村に住んでいたいと同じように充実した学校生活を送りたいです。そのために自分たちの力で飯館村も盛り上げたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 大島 一樹

年齢 15歳

職業・学校名 飯舘中学校

僕は震災後、千葉県◇の親せきの家に避難し  
 ました。今まで一緒に遊んでいた村の友達と  
 別れることはとても悲しか、たです。避難先  
 での新しい生活に慣れるのに大変でした。そ  
 んな避難先でも日にちかたつにつれて新しい  
 友達がたくさんできました。また村に住ん  
 でいた時には経験することかできな、た事  
 かできて良か、たです。小学校を卒業後、僕  
 は福島に帰。ここで、村の友達とも再会しま  
 した。今は楽しい中学校生活を送。ています。  
◇

今の僕の目標は志望校に合格することです。  
 そのために今は受験勉強や面接・小論文の練  
 習に力をかけられています。僕は将来建築士に在  
 りたいと思、ています。そして一級建築士の  
 資格を取得し、家や公共施設を設計したいと思  
 思、ています。また、飯舘村を震災前のよ  
 うな活気のある村にするために村の中の施設を  
 造る仕事にも関りたいたです。そのためにま  
 ずは志望校に合格して建築の基礎を学ぶたい  
 と思、ています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 緑若菜

年齢 15 歳

職業・学校名 飯館中学校

私 が 震 災 後 一 番 が ん ば、 本 事 は 家 族 の 支 え  
 に 寄 り が ち 依 い な ど を す る こ と で す。 震 災 の  
 日 は 停 電 し て 飯 も 何 も な く お 母 さん が 1 人 で  
 大 変 そ う な 姿 を 見 て 私 も 何 か 出 来 る こ と が 可  
 い か 考 え て 飯 の 用 意 を 手 依 い ま し た。 今 も が  
 ん ば、 て 手 依、 て い ま す。

そ れ と 震 災 が あ、 て 家 族 の 大 切 な や 家 族 の 絆  
 が わ か り ま し た。 お 父 さん は 学 校 ま で お か え  
 に 来 て く れ て そ の 時 は す ぐ く 嬉 し く 感 動 し ま  
 し た。 家 に 帰 る と お じ い さん が 任 事 から 帰

っ て 寄 っ た ま に お じ い さん と お ば あ ち さん  
 が 何 か 言 い て 仲 悪 い な、 と 思、 て い た り ど お  
 ば あ ち さん は 1 番 心 配 し て い て 何 が あ、 て も  
 か、 け り 家 族 は 大 切 だ と そ の 頃 思 い ま し  
 た。 も う 5 年 前 だ、 の で 私 も 飯 館 村 の た め に  
 何 か 出 来 可 い か と 思、 私 は 将 来 保 育 士 に な り  
 た い の で、 飯 館 村 を 緑 豊 が で 人 の 笑 い 声 が と  
 か け り 村 に し い つ が 飯 館 村 の 保 育 園 で は た ち  
 子 た い ね と 思、 て い ま す。 そ の た め に 今 勉 強  
 を た と え ん し て が ん ば り た い と 思 い ま す。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 高野 絵美

年齢 15 歳

職業・学校名 飯館中学校

震	災	後	の	苦	労	は	中	学	校	3	年	間	の	部	活	動	で	の	
時	間	で	す。																
私	が	通	う	飯	館	中	学	校	は	<sup>く</sup> 被 <sup>く</sup> 難	を	し	て	福	島	市	の		
飯	野	町	に	あ	り	ま	す。	な	の	で	学	校	に	通	う	半	分	以	
上	の	生	徒	は	バ	ス	通	学	で	す。									
登	下	校	は	バ	ス	な	の	で	放	課	後	の	活	動	時	間	は	約	1
時	で	は	2	時	間	、	1	時	で	は	30	分	ぐ	ら	い	ま	す。		
他	の	中	学	校	は	も	っ	と	や	っ	て	い	る	と	思	い	ま	す	か
私	達	は	時	間	と	有	効	に	使	い	改	め	て	時	間	の	大		
切	さ	を	し	り	、	日	々	部	活	動	に	は	げ	ん	で	ま	ま	し	た
私	の	将	来	の	夢	は	福	祉	士	な	の	で	、	飯	館	村	に	帰	
村	し	た	時	、	私	は	小	い	さ	い	頃	か	ら	と	な	り	て	ま	
た	村	に	、	福	祉	と	し	て	戻	り	た	い	と	思	い	ま	す。		
2	0	2	0	年	に	東	京	で	オ	リ	ニ	テ	ハ	リ	ガ	開	か	い	
ま	す。																		
と	う	も	う	い	し	る	こ	と	で	す	が	、	東	京	に	ば	か	り	お
金	が	集	ま	り	ま	ぎ	て	い	て	、	復	興	に	役	に	立	つ	お	金
が	少	な	い	と	思	い	ま	す。											
な	の	で	、	東	京	オ	リ	ニ	テ	ハ	リ	に	お	金	を	使	う	の	も
ら	い	で	す	が	、	復	興	に	も	力	を	い	れ	て	ほ	し	い	で	す。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 花子 年齢 15 歳 職業・学校名 飯館 中学校

今	年	の	3	月	で	東	日	本	大	震	災	か	ら	5	年	が	た	ち	
ま	す	。	住	み	な	し	た	自	分	の	家	、	3	、	3	と	を	離	れ
て	、	避	難	を	し	て	こ	と	が	一	番	、	悲	し	く	辛	い	こ	と
ぞ	し	た	。	近	所	の	人	、	反	響	、	家	族	皆	ど	こ	の	ま	で
あ	ら	り	ま	え	に	近	く	に	い	た	人	達	と	は	な	ら	ず	な	ら
に	あ	る	人	も	い	ま	し	た	。	避	難	を	し	て	暮	ら	つ	つ	て
か	ら	も	、	長	い	バ	ス	通	学	が	不	便	だ	と	思	う	こ	と	も
あ	り	ま	し	た	。	で	も	、	私	の	小	学	校	や	中	学	校	は	転
校	し	て	こ	と	が	不	便	が	少	な	か	っ	た	し	、	バ	ス	を	使
て	学	校	に	行	く	こ	と	が	で	き	ま	す	。	他	の	小	学	校	・
中	学	校	と	く	ら	べ	た	ら	ま	だ	幸	せ	な	ら	う	だ	と	感	じ
子	こ	と	が	多	く	あ	り	ま	し	た	。	今	、	私	の	中	学	校	で
は	、	支	援	し	て	く	だ	さ	。	そ	の	為	に	感	謝	の	気	持	ち
を	行	動	で	示	す	た	と	思	い	ま	す	。	こ	の	か	ら	取	り	組
い	ま	す	。																
私	は	今	年	高	校	生	に	あ	り	ま	す	。	こ	の	東	日	本	大	震
災	の	経	験	を	人	生	に	生	か	し	て	い	ま	す	。	と	思	い	ま
す	。	ま	た	、	人	の	役	に	立	て	あ	り	ま	す	。	こ	の	人	に
あ	り	ま	す	。	と	思	い	ま	す	。									

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 璃菜 年齢 15 歳 職業・学校名 飯館 中学校

私	達	は	震	災	後	、	飯	館	村	を	離	れ	て	生	活	す	る	こ	う
に	な	り	ま	し	た	。	ず	、	と	一	緒	に	、	友	達	が	転	校	し
た	り	、	新	し	い	環	境	に	変	わ	、	た	り	な	ど	し	て		
最	初	は	と	て	も	不	安	で	し	た	。	し	か	し	、	家	族	や	友
達	と	支	え	合	い	、	今	で	は	楽	し	い	生	活	を	過	ご	す	こ
と	が	で	ま	り	ま	す	。												
東	日	本	大	震	災	が	起	き	ま	り	、	も	う	5	年	に	な		
り	ま	し	た	。	あ	、	と	い	う	ま	の	5	年	間	が	、	な	と	思
い	ま	す	、	今	後	は	高	校	に	合	格	し	、	充	実	し	た	時	間
を	過	ご	し	て	い	ま	す	。	と	し	て	い	つ						
の	日	が	、	自	分	の	夢	を	叶	え	て	故	郷	で	あ	る	飯	館	村
を	訪	ね	た	い	と	思	い	ま	す	。									
私	達	が	村	に	戻	、	て	ま	り	、	も	と	の	飯	館	村	の		
ま	り	な	緑	が	豊	か	で	、	た	く	さ	ん	の	笑	顔	が	見	え	る
す	ば	ら	し	い	村	で	あ	っ	て	ほ	し	い	と	思	い	ま	す	。	飯
館	村	が	も	、	と	豊	か	に	な	る	よ	う	に	、	た	く	さ	ん	知
強	し	、	少	し	で	も	村	の	な	か	に	な	る	よ	う	に	し	た	い
と	思	い	ま	す	。														



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 橋本 遥香 年齢 15 歳 職業・学校名 飯館宮中学校

私は震災後、庭や広いところで遊ぶのが  
 の生活習慣がみだれられてしまいました。  
 飯館村は庭が広いため、外で遊ぶ子供が  
 福所が多くいます。体を運動することは出来  
 ました。震災後、ひびんしてからは、遊び  
 場が近くにありません。近所に飯  
 館村の子供と一緒に遊ぶことができると  
 喜んでおりました。とある家にすくと  
 いるので運動することができず、生活習慣が乱  
 れてまいりました。

私は福島が大好きで福島で過ごしてこ  
 ると思っています。そこで飯館村に若者  
 も全国からたくさんの人たちが来ると  
 思います。将来、福島がとてもしっかり  
 とふるふうに何かできることをあゆませたい  
 と思っています。



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 細川 幸香 年齢 15 歳 職業・学校名 飯館中学校

私	は	震	災	後	、	飯	館	の	大	き	く	て	広	い	家	か	ら	小		
さ	く	て	せ	ま	い	仮	設	住	宅	に	避	難	し	ま	し	た	。	私	は	
九	人	家	族	な	の	で	仮	設	住	宅	を	二	つ	借	り	ま	し	た	が	
一	度	外	に	出	て	か	ら	と	な	り	の	家	に	行	か	な	く	て	は	
な	ら	な	か	、	た	の	で	と	て	も	不	便	で	し	た	。	そ	の	中	
で	も	、	両	親	が	、	私	た	ち	が	ス	ト	レ	ス	と	感	い	な	い	
よ	う	に	、	せ	ま	い	部	屋	を	な	る	へ	く	広	く	使	え	る	よ	
う	に	収	納	を	工	夫	し	て	く	ら	ま	し	た	。	現	在	は	大	き	
な	家	を	買	い	、	あ	ま	り	不	便	を	感	い	な	く	な	り	ま	し	
た	。	不	便	を	感	い	な	く	た	、	た	の	も	、	た	く	さ	ん	の	
市	々	か	ら	の	支	援	が	あ	り	、	た	か	ら	だ	と	思	い	ま	す	。
今	後	、	支	援	し	て	く	ら	さ	り	、	た	市	々	へ	の	感	謝	の	
気	持	ち	を	忘	れ	ず	に	、	地	域	の	ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	な	ど	
に	積	極	的	に	取	り	組	ん	で	い	き	た	い	で	す	。	ま	た	、	
私	は	保	育	士	に	な	る	と	い	う	夢	が	あ	る	の	で	、	そ	の	
た	め	に	し	、	か	り	勉	強	し	、	高	校	、	大	学	に	進	学	し	
た	い	で	す	。																

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 細木 睦輝

年齢 15 歳

職業

学校名 飯館中学校

震災後では、一番環境が変わりストレスが  
 すごくなり、鼻血や口の炎などがたくさん  
 あってしまったのが苦労しました。またその  
 他にモ外で遊ぶのに放射線を気にしてやめた  
 りとしました。がんばってきたことは、スト  
 レスをなるべく小さくすようできただけ意識し  
 たり、外で遊べないのなと体育館などにいき  
 体を動かしたりと肥満にならないうえを  
 けたことです。今現在は、ストレスがそんな  
 にはまらなかつたり、放射線の授業で知識を  
 身につけたりと、外で遊んでも大丈夫だとし  
 り今では楽しく遊んでいます。

今後、僕は飯館を復興させるように働きた  
 いと思、ています。そのために必要なのは、  
 まず、除染が終わる世帯水の状態にすること  
 と、帰っても困らないうえに店を創る必要  
 があることが必要だと思、ています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 赤石 澤美優希

年齢 15 歳

職業・学校名 飯館中学校

震	災	後	は	、	私	は	あ	ま	り	不	便	で	は	あ	り	ま	せ	ん	
で	し	た	が	、	お	い	さ	と	の	家	を	は	た	け	て	別	の	家	に
住	む	の	が	と	て	も	悲	し	か	、	た	の	も	お	ぼ	え	て	い	ま
す	。	で	す	が	、	私	や	家	族	は	お	た	が	い	ち	さ	さ	え	合
っ	て	生	活	し	ま	し	た	。	私	や	弟	、	妹	は	仕	事	が	で	き
お	い	の	で	、	家	の	手	伝	い	て	せ	、	ま	ず	く	的	に	や	り
ま	し	た	。	今	で	は	、	今	い	る	家	な	ど	が	と	て	も	住	み
や	す	く	、	楽	し	い	で	す	。										
私	は	、	パ	ー	ク	ニ	エ	に	な	り	た	い	と	思	っ	て	い	ま	す
。	た	の	が	今	後	の	目	標	は	、	パ	ー	ク	ニ	エ	に	な	る	た
め	の	勉	強	で	す	。	そ	の	た	め	に	、	数	学	と	英	語	を	
特	に	頑	張	っ	て	い	ま	す	。	そ	し	て	、	食	物	文	化	科	の
あ	る	高	校	を	受	験	し	、	合	格	す	る	た	め	に	た	く	さ	ん
勉	強	し	て	い	ま	す	。	そ	し	て	、	パ	ー	ク	ニ	エ	に	な	る
た	ら	、	自	分	の	作	、	た	お	菓	子	で	多	く	の	人	に	笑	顔
を	届	け	ら	せ	る	ま	う	に	な	り	た	い	で	す	。				

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 尚日 年齢 14歳 職業・学校名 学生・飯倉官中学校

震災後一番苦労したのは、村からバスで川俣町の学校まで登校したことでした。朝早くからスクールバスに乗り、本来かよっているはずの学校の近くを通過して登校してしまいました。学校に行っても、同じ村の生徒とはいえず、顔も名前も知らない人ばかりでとても不安でした。でも今は、川俣町に家を借り、中学はとなり、友達もたくさんできたので毎日楽しく学校に登校して行きます。

僕は将来電気関係の仕事につくという目標をもっています。そのためには、中学校で習ってきたことをしっかりと復習して、志望校に合格することが必要です。志望校に合格して電気工事に就いてしっかりと学びたいと思います。そして、しっかりと自分の夢が実現するように頑張っていこうと思います。



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 聖和 年齢 15歳 職業・学校名 飯舘中学校

今、現存僕は、福島市に避難しています。  
 なので僕は、学校まで毎日バスに乗って通学  
 しています。震災前だったら、家から学校ま  
 で、歩いていける距離でした。しかし、本校  
 に通学することができないので、今は、飯野  
 の仮設校舎に通学しています。とても悲しい  
 です。小学校も、飯舘の小学校ではなく仮設  
 の校舎で卒業しました。僕はもうすぐ中学校  
 を卒業します。一度でもいいから、本校舎で  
 勉強や部活動をしたかったです。この思いは  
 みんなもあるはずなので、後輩達には本校舎  
 で勉強や部活動をしてもらいたいです。  
 僕は今、アパートに住んでいます。祖父と  
 祖母もいます。僕は、祖父と祖母にとっても苦  
 労をかけています。なので、将来の夢でもあ  
 る建築士になって、祖父と祖母に家を建てる  
 という恩返しをしたいです。



「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 細川竜太

年齢 15 歳

職業・学校名

飯館村立 飯館中学校

私が震災後不便だと思、た事は、今までの家より小さい、という点です。飯館村に住んでいた時は、大きな土地と、大きな一軒家に住んでいたのですが、今は、アパートに住んでいきます。近には、コンビニスーパーなどがあっても便利です。しかし、遊ぶ所などはあまりないのでとても不便です。遊ぶのには福島市まで行かなければいけないので、移動時間もかかると、遊ぶ時間もかぎられてきます。

私の今後の目標は、将来に向けて学習することです。

私は、将来整備士という仕事にフキたいと思っています。機械の仕事なので、すぐには慣れないと思いますが、私が今まで学習してきたことを生かしてがんばりたいです。立派な整備士になり、家にある車を整備工場まで持って行くのではなく、自分で直せるようになりたいです。将来に向けて高校に入学してもし、カリ学習を通して行きたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 石黒 優志

年齢 15 歳

職業・学校名 飯館宮中学校

震	災	が	起	き	を	か	ぶ	は	避	難	を	し	な	り	水	は	い	り	
な	い	状	態	に	な	り	。	今	ま	で	住	ん	で	い	た	飯	館	村	の
家	が	ぶ	離	れ	。	市	内	に	ア	パ	ー	ト	を	借	り	て	住	む	こ
と	に	な	っ	た	け	れ	ど	。	周	り	に	は	飯	館	村	に	い	た	人
達	も	い	た	り	。	川	俣	中	学	校	の	借	り	て	い	た	教	室	に
行	く	と	。	た	く	さ	ん	の	友	達	が	い	た	の	で	少	し	安	心
し	ま	し	た	。	当	時	か	ぶ	。	今	ま	で	た	く	さ	ん	の	事	が
あ	っ	た	り	れ	ど	。	い	ろ	ん	な	人	達	と	ま	え	あ	っ	こ	こ
れ	た	か	ぶ	。	今	の	自	分	が	あ	り	。	そ	し	て	。	自	分	が
な	り	た	い	な	と	思	え	る	夢	を	持	つ	こ	と	が	で	き	た	の
だ	と	思	い	ま	す	。													
私	の	夢	は	。	築	築	関	係	の	仕	事	に	就	く	と	い	う	こ	こ
と	な	の	で	。	そ	の	夢	を	目	標	と	し	て	か	か	げ	目	標	を
達	成	さ	せ	る	こ	と	が	出	さ	る	よ	う	に	。	今	頑	張	り	。
少	し	で	も	後	に	活	か	せ	る	こ	と	を	し	て	い	き	た	い	と
思	っ	て	い	ま	す	。													